

# 台風第18号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成29年 9月14日  
新潟県農林水産部

平成29年 9月14日 8時40分に気象庁から発表された台風第18号の「5日進路予報」では、17日から18日にかけて本県に最も接近する見込みです。

今後発表される気象情報に注意し、下記の対策を参考に農作物等の管理に努めてください。

なお、台風によって大雨となった場合は、安全確保のためほ場や水路等の見回りは行わないようにしてください。

## I 普通作物

### 1 水 稻

#### 【事前対策】

- (1) 収穫期を迎えているほ場は、可能な限り収穫を進める。
- (2) 収穫までまだ間があるほ場は、大雨が予想される場合は、ほ場の停滞水を迅速に排除するため、排水路の整備・点検を実施する。また、フェーン現象が予想される場合は、登熟不良等を防ぐため、田面を湿潤状態に保てるよう、水尻や暗きょ栓を閉める。

#### 【事後対策】

- (1) 収穫前のほ場が浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水する。穂先まで冠水したほ場は、特に排水を急ぐ。
- (2) 大雨や強風によって倒伏が進んだ場合は、穂発芽等による品質低下を防止するため、ほ場排水を進めながら、早めに刈り取る。
- (3) 収穫時の籾水分が高い場合は、収穫後できるだけ早く乾燥機に張り込み、通風による生籾の変質を防止するとともに、設定温度を下げ乾燥する。
- (4) 成熟期頃にフェーン現象に遭遇し、籾水分が急激に低下した場合は、立毛中でも胴割が助長されることから、できるだけ早く刈り取る。また、乾燥作業は、乾燥速度（毎時乾減水分）が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定し、胴割粒の発生を防止する。

### 2 大 豆

#### 【事前対策】

- (1) 排水路及びほ場内の排水溝の整備・点検を実施する。
- (2) フェーン現象が予想される場合は、ほ場の乾燥を防ぐため暗きょ栓を閉める。

#### 【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、湿害による登熟低下や枯死を防止するため、できるだけ早く排水する。
- (2) 茎や葉、莢が損傷を受けた場合は、腐敗粒が発生しやすいので、刈り遅れないよう注意する。

- (3) ほ場の乾燥を防ぐため暗きよ栓を閉めた場合は、フェーン現象が収まった後、暗きよ栓を開ける。

### 3 そ ば

#### 【事前対策】

排水路及びほ場内の排水溝の点検・整備を行う。

#### 【事後対策】

ほ場内に停滞水が生じたら、迅速な排水に努める。

## II 園芸関係

### 1 全 般

#### 【事前対策】

- (1) 収穫期にある園芸作物（なし、ぶどう、ねぎ等）は、可能な限り収穫する。
- (2) フェーン現象が予想される場合は、ほ場やポット・トレイの乾燥及び作物の脱水症状を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水する。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水する。
- (3) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を点検・補強する。
- (4) 施設（ハウス、雨よけなど）のビニール類を強風から保護するため、マイカー線の点検・補強、らせん杭等の固定資材の確認を行うとともに、換気扇や天窓が強風で飛ばされないよう補強する。
- (5) 台風通過中は、ハウス被覆資材のばたつきを防ぐため、ハウスを密封し換気扇を稼働させる。
- (6) 大雨が予想される場合は、長時間の滞水を避けるため、ほ場内及び周辺の溝切り等排水対策を徹底する。

#### 【事後対策】

- (1) フェーン現象の影響で脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
- (2) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに引き起こし、土寄せ、かん水する。
- (3) 強風で傷んだ茎葉は病気が感染するおそれがあるため除去し、適切な薬剤散布により病害の発生防止に努める。
- (4) 枝・葉ずれ等の被害が発生したほ場では、収穫物の選果・選別に留意する。
- (5) 施設、支柱・支線、誘引結束等を点検し、破損箇所は速やかに補修する。
- (6) ほ場内の停滞水は根腐れ等の原因となるため、速やかに排水する。

### 2 野 菜

#### 【事前対策】

- (1) 強風等が予想される場合、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ねぎ等では、出蕾期または結球期に入っている場合を除き、倒伏や茎折れを防ぐため、土寄せを行う。
- (2) 露地で育苗中の品目は、葉の損傷を防ぐため、べたがけ資材で被覆する。

#### 【事後対策】

- (1) ねぎが倒伏した場合は、曲がり防止のため、早急に起こして土寄せする。  
えだまめ、なす、アスパラガス等が倒伏した場合は、速やかに支柱に誘引する。
- (2) 強風雨に遭遇した収穫中の果菜類は、草勢低下を防ぐため、早めに収穫・摘果する。
- (3) 施設野菜等で施設内に浸水した場合は、換気を十分行い、土壌の乾燥を図る。  
また、マルチ内が過湿状態の場合は、一時的にマルチの裾をめくり、乾燥を促す。  
特に果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、遮光資材を利用して急激な温度上昇を防止するとともに、摘果により着果負担を軽減する。
- (4) 茎葉が損傷した場合は、薬剤散布のほか、草勢回復のため、液肥の葉面散布を行う。

### 3 果 樹

#### 【事前対策】

- (1) 果実の落下や倒木を防ぐため、補強用の支柱を入れ、マイカ線やロープ等で枝をしっかりと結束・固定する。
- (2) 潮風を伴った強風の場合、散水による塩分の洗い流しが有効なので、事前に散水の準備をしておく。

#### 【事後対策】

- (1) ハウス、棚、防鳥網等の破損箇所は、速やかに補修及び掛け直しする。
- (2) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (3) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。
- (4) 倒伏した樹を引き起こす場合は、残った根を傷めないよう慎重に作業を行う。  
また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。
- (5) 強風や潮風による落葉が著しい場合、品質低下を防ぐため、障害果を優先して摘果し、適正な葉果比を維持する。また、収穫まで1か月以上ある樹種（品種）では、落葉が著しくなくても、程度に応じて同様の対応を行う。
- (6) 潮風を伴った場合は、直ちに鉄砲ノズルやスプリンクラーによる散水を実施する。

### 4 花 き

#### 【事前対策】

強風が予想される場合は、露地切り花では茎葉のスレを防止するため、必要に応じてネットを下げる。また、雨よけ施設ではビニールや遮光資材を外しておく。

#### 【事後対策】

- (1) 倒伏した株は、茎や花穂の曲がり防止のため、風が止んだら早急に立て直す。
- (2) 冠水・浸水により茎葉が汚れた場合は、ほ場の排水に努めるとともに、可能な限り速やかに散水等で汚れを落とす。
- (3) 施設が被災した場合は、速やかに作動点検を行う。特に、キク等の栽培に係る電照・補光関連装備（電球、タイマー等）は、作動点検及び修理を急ぐ。

## Ⅲ 畜産

### 【事前対策】

- (1) 停電など緊急時に備え、自家発電装置の準備、点検を行っておく。
- (2) 畜舎の破損を防ぐため、窓や扉等を補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は、補強を確実に行う。
- (3) 畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料・乾草等は濡れて変質・腐敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (4) ほ場から搬出していない牧草のラップサイレージ等、調製済みのロールベールは、水はけの良い場所に搬出し、縦置きにする。
- (5) 放牧中の牛は、安全な施設、場所に避難させる。
- (6) フェーンが予想される場合は、熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。また、給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

### 【事後対策】

- (1) 畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、すみやかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は入念に点検を行い、洗浄、消毒等の衛生対策を徹底する。
- (2) 熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。また、家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

## Ⅳ きのこと

### 【事前対策】

- (1) 一般対策  
あらかじめ、施設や栽培状況を把握し、想定される被害に対して、早急に対応できるように準備、点検を行う。
- (2) 大雨が予想される場合  
施設等への雨水の浸入を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。
- (3) フェーンが予想される場合  
散水・空調等で温度管理に努めるとともに、きのこについては品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷库等で保管する。
- (4) 防風対策  
ア 施設（ハウス、雨よけ等）の戸締まり・点検を十分に行い、損壊等が生じないように保護・補強に努める。  
イ 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆等の適切な管理を行い、移動が可能な資材については屋内に移動させる。

### 【事後対策】

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (2) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。
- (3) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しない

よう注意する。

- (4) 浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- (5) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。

## V 水産

### 【事前対策】

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲等に近づかないようにして、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

### 【事後対策】

係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、十分な安全を確保してから実施する。